

## 本年もよろしくお願ひいたします

### 年の始まり

新しい年が明けた。皆年の区切りをつけて、新しい年を迎えたことだろう。

私は80回目の「年の折り返し」となった。折り返しとは、折り返したときにできる境目のことだが、昔の人は節供や節日の行事を指していた。それが、物事の区切りやけじめ、「折り返し」と行儀作法などを指すようにもなった。古風で好きなことばである。

年初の楽しみは年賀状だろう。お互い生存を確認し合うだけのものになっていても、貰うと嬉しいものもある。私は旧暦で出している。なぜかといえば、この

時季に「迎春」とか「新春」は早すぎるからと、それなりの理屈はあるが、じつはある年の暮れに多忙にまぎれて年賀状が用意できなかったからである。それがきっかけで、以来、20年近く旧正月に出している。



旧暦だと季節も合っているし、いただいた方には間違いなく返事が出せるという利点もある。ひと月遅れの賀状だから、少しくだわって凝ったものになっている。今では「旧正月の賀状待っています」とリクエストを兼ねた賀状をいただくこともある。今年の旧暦元旦は2月10日だから、準備はこれからだ。

現在の暦(新暦)になったのは、明治6(1873)年1月1日からで、すでに150年も経っている。旧暦で生活していた人はもういないし、それを気にする人もまじらない。気にしているのは、旧暦元旦に賀状を出すへそ曲がりの私くらいであろう。だが、旧暦の名残は風習や行事のなかに色濃く残っている。日本人は、1200年以上の間、旧暦で暮らしてきたから当然のことである。旧暦は、月の満ち欠けを元としている。1日は朔日

(さくじつ)の新月から始まり、しだいに月が満ちて15日に望月(もちつき)の満月となる。それから月は欠けていき、再び新月となって1カ月が終わる。

ひと月は新月から始まるが、一日の始まりはいつからだろうか。ほとんどのひとは「午前0時」と答えるだろう。では、「きのうの晩」とはいつの時間帯かと聞かれたら、どう答えるだろうか。お盆にご先祖様を迎えるために「迎え火」を焚くが、なぜ夕方なのか。



お祭りは宵宮から始まるが、なぜ朝からではないのか。皆は、昔からそうだったと答えるだろう。そう、遠い昔からそうだったのである。これは柳田國男をはじめ多くの学者が認めていることだが、昔の日本人は、一日の始まりは日没からと認識していたからである。

だから、「一昨晩」を「きのうの晩」と呼ぶ風習が残り、祭礼は「一日の境」である夕刻から始まるのである。その夜は寝ずに神と酒食を共にするのが常で、「火祭」などもそれによって発達したのだそうだ。「歳神様」を祀る正月もその通りである。大晦日の夕餉(ゆうげ)を「年越し」といい、それが済むとそのまま神社に詣でるのもその名残で、当然、「初夢」は2日目の晩になる。旧暦であろうが新暦であろうが、「年の境」を神事のように「折り返し」をつけて過ごす。この「儀式」のような過ごし方は、日本人独自の優れた精神文化で、長い歴史のなかで育まれてきたものである。近年は、大騒ぎで新年を迎える人たちが多くなると、「折り返し」がなくなっているようだが。

野中 康行

《松園新聞「小言・たわ言」  
独り言 NO・12》

冬の自動車トラブル  
★バッテリー上がり  
★路肩への脱輪  
(スタックは対象外)  
慌てずにロードサービスへ  
☎0120-365-110



【カシオペア店】  
二戸市堀野字馬場  
44-1



【北上店】  
北上市常盤台  
3-1-32



【本店】  
盛岡市中央通り1丁目  
5-17

株式会社エイアンドビー  
アシスト